

川越けいじの政治目標

- 子育て支援策の更なる拡充
- 社会福祉の充実した街づくり
- 救命救急体制の整った街づくり
- 犯罪の無い安全な街づくり
- 活力と優しさに満ちた街づくり
- 豊かな心と健全な身体を育む教育

市議会報告

自由民主党 新 政 会
かわごえ けい じ
鹿児島市議会議員 川越桂路
〒892-8677 鹿児島市山下町11-1
TEL 216-1436 FAX 227-7955
〒892-0846 鹿児島市加治屋町6-8
TEL 252-7777 FAX 226-9539
E-mail:info@kawagoe-keiji.jp
URL:www.kawagoe-keiji.jp

鹿児島市立の小・中・高にクーラー設置へ

昨年9月議会で川越桂路(自民新政)代表質問に市長が前向き答弁

まず、一般会計当初予算については、九州新幹線全線開業や次世代育成、安心・安全で快適な生活基盤の確立などを意識し、昨年比4・3%増の三千二百九十一億四千七百万円という過去最高の予算規模となりました。なお、当局による予算編成は、5つの大きな重点的取組項目を掲げて行われており、その中で、以下、主な新規・拡充事業をピックアップしてその内容と予算額を紹介させていただきます。

光周遊バスを実施します。十月運行開始予定です。十月運行開始予定

●桜島フリーよりみちクルーズ船運航事業(929万円)
桜島と錦江湾の魅力海上から身近に楽しめるクルーズとして、鹿児島港から神瀬を周

●市電軌道敷緑化整備事業(2億4809万円)
工業部交差点・都元



市議会議員 川越けいじ(39)

今年度一般会計当初予算 過去最高額の2291億4700万円

平成二十三年第一回市議会定例会が二月十四日から三月二十二日の三十七日間わたって開かれ、平成二十三年度一般会計予算を始めることとする議案六十一件を可決しましたので、川越桂路(かわごえけいじ)が、当初予算の概要等について報告致します。

平成一十二年第一回市議会定例会が二月十四日から三月二十二日の三十七日間わたって開かれ、平成二十三年度一般会計予算を始めることとする議案六十一件を可決しましたので、川越桂路(かわごえけいじ)が、当初予算の概要等について報告致します。

にぎわい 活力の創出とホスピタリティの醸成

●桜島周遊バス事業(2391万円)
観光客の皆さんが、桜島を気軽に周遊できるように、新たに桜島港を発着点に湯之平展望所までを循環する観光バスを運行します。

50分の「よりみちクルーズ船」を年末年始を除き、毎日運航します。

●頑張る商店街支援事業(1756万円)
商店街の活性化を図るため、商店街等の独自の取り組みに対して助成を行います。

●私立保育所運営費(82億9841万円)
保育所の定員増により入所枠を拡大するとともに、保育所に入所する児童に係る運営費を支給します。

●当初定員8143人・対前年比920人増

●放課後児童健全育成事業(4億8903万円)
居間保護者のいない小学校低学年児童に対して、適切な遊びと生活の場を提供し、放課後における児童の健全育成を図ります。

●児童クラブ9箇所開設・土曜及び夏休み等における運営時間の一時延長

子育て支援策もさらに充実

次世代の育成と市民文化の振興

●すこやか子育て交流館管理運営事業(8509万円)
すこやか子育て交流館(通称 りぼんか)の管理運営及び子育て家庭等を支援するための各種講座や育児相談等を行います。

●私立保育所運営費(82億9841万円)
保育所の定員増により入所枠を拡大するとともに、保育所に入所する児童に係る運営費を支給します。

●当初定員8143人・対前年比920人増

●放課後児童健全育成事業(4億8903万円)
居間保護者のいない小学校低学年児童に対して、適切な遊びと生活の場を提供し、放課後における児童の健全育成を図ります。

●児童クラブ9箇所開設・土曜及び夏休み等における運営時間の一時延長

●普通教室クーラー設置事業(7億1267万円)
市立の小中学校及び高校の普通教室にクーラーを設置し、良好な教育環境を確保します。平成22年度の予算計上分を含めて、23年度は31校の整備を行います。(詳しくは次頁の別表をご参照下さい)

※ここに紹介させていただいた予算は、全体予算の一部です。

市民の命を守る「市立病院」の体制強化進む

職員大幅増員、小児救急医療拠点病院指定など



新しい市立病院の完成予想図(平成27年度開院予定)

項目	現病院	新病院
①敷地面積	15,863㎡	約44,600㎡
②延べ面積	39,971㎡	約51,300㎡
③建物階数	地下1階、地上7階	地上8階、塔屋1階
④建物高さ	約35m(最高高さ)	約41m(最高高さ)
⑤構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造 (免震構造)
⑥病床数	687床	約580床

現病院と新病院の比較

点病院とは、質の高いがん治療が受けられるように、都道府県の推薦により厚生労働大臣が指定した病院で、がん治療の中核となる施設です。がんの手術治療、抗がん剤治療、放射線治療が一定の基準を満たし、複数の診療科が協力して診療を行うことや、緩和治療を提供できることが条件となっています。

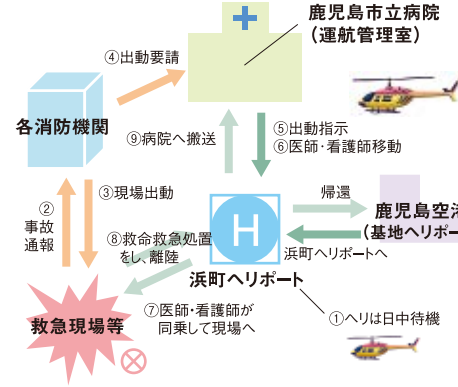
小児救急医療拠点病院にも指定

鹿児島市医師会病院が小児救急拠点病院の指定を返上することに伴い、今年の6月1日から鹿児島市立病院が小児救急医療拠点病院として指定され、今年度の診療開始に当たります。

鹿児島市立病院を、実施主体とするドクターヘリが、今年十二月の運航開始を目指し準備を進めています。

これまで一貫して、鹿児島市における救命救急体制の拡充・強化を訴え、議会で取り上げて参りました私としては、これを喜ばしく思いますし、その効果に期待をしております。

今任期の平成二十年第三回定例会における私の個人質問において、市長からは「鹿児島県において主体的に検討されるべきであり、本市としては、十分な財政的支援があれば導入を検討したい」という意向が示されましたが、



となる病院を県が指定するものです。この指定を受けることに伴い、小児科医師を3名、看護士を6名増員します。結果として、医師不足が問題となっていた小児医療の集積が図られ、小児を取り巻く医療環境が改善されるものと期待致しております。

鹿児島市立病院は、このようにソフト面等

の拡充を図りながら、平成二十七年までに上荒田町の旧J.T跡地に新病院を開院させる予定です。現在の準備が着々と進められております。

ドクターヘリの導入につきましては非常に喜ばしいことですが、今後は、私、川越桂路(かわごえけいじ)が、これまでも一貫して導入を求めてきたドクターヘリについて、更に、その必要性を強く訴えて参りたいと考えております。

持つことは確かだが、確実な利便性では救急車に劣る。これまでも、現在も、これからも日本の救急活動の主力は救急車によって担われていることは論を待たない」という見解を示しております。

ドクターヘリの導入につきましては非常に喜ばしいことですが、今後は、私、川越桂路(かわごえけいじ)が、これまでも一貫して導入を求めてきたドクターヘリについて、更に、その必要性を強く訴えて参りたいと考えております。

市政に対する質問や相談など何でもお気軽にお寄せ下さい。

鹿児島市政に対する市民の皆さんの質問や相談を受け付けております。安全・教育・子育て・福祉など、どのような事でも結構です。左記TEL・FAX・メールにお寄せ下さい。

市議会議員 川越 けいじ
TEL 252-7777 FAX 226-9539
E-mail:info@kawagoe-keiji.jp

森市長の基本的政治姿勢を質す 児童生徒の健康を守るためクーラー設置も強く要望

昨年度9月議会
代表質問

平成二十二年第三回定例会において、川越桂路(かわごえけいじ)が自民党新政会を代表して代表質疑を行っておりますので、その一部を抜粋し紹介致します。

市長の描く鹿児島市のまちづくりは?

(市長) 市長は、鹿児島市のまちづくりに関して具体的にどのようなまちをつくりたいと考えているのか。

新年度予算の説明では、「九州新幹線全線開業により、観光面等に期待されるよりダイナミックな交流を絶好のチャンスとして、本市の有する豊かな個性によりなる磨きをかけるとともに、国内外への積極的な情報発信などにより、ホスピタリティーあふれる国際観光都市を目指します」、とあるが、私はそれがどんなまちなのかイ

メージが湧かない。国内でも海外でも良いので、イメージに一番近い都市名を具体的に挙げていただき、特に中心市街地、ウォーターフロントについては、観光面を含めてどのようなまちづくりをされるつもりなのか具体的に示していただきたい。

(市長)

イメージする具体的な都市は特に無いが、錦江湾や桜島という世界に誇れる美しい景観、南国の風土に育まれた豊かな食文化、泉源豊富な温泉、暮れから明治維新にかけ数多くの英傑を輩出した特色のある歴史など、地域特性を存分に生かした、他の都市にはないオリジナリティーあふれるまちづくりを進めるとのこと。



自民党新政会を代表して質問する川越桂路

は特になく、錦江湾や桜島といった世界に誇れる景観など、地域特性を存分に生かしたまちづくりという点では、ぼんやりとしたイメージは湧いてく

るが、それでも「これが将来の鹿児島」という鮮明なイメージが見えてこないのは、私だけではないと思う。頭の中で考えていることを言葉にしているだけで、目で見えてくるイ

メージで表現することは非常に大切だと思っております。

市長の表現される他の都市にないオリジナリティーあふれるまちづくりのイメージを、ジオラマやイメージ画像で示す機会があれば、市民にとっても非常にわかりやすいと思うので、機会をとらえて取り組まれるよう要望します。

(市長)

今年の夏は、お年寄

りを中心に熱中症による多数の死者が出るなど記録的な猛暑となっている。

そのような中、八月十四日付の地元紙によると、森市長と垂水市の水迫市長が文部科学省に公立小・中・高の普通教室に対するクーラー整備の財政支援を求めた、という記事があり、川端文部科学大臣も「降灰は災害だ

と、市長の意向も聞いて努力する」と答えられたとのこと。

それらを踏まえ、市立学校の普通教室にクーラーを設置することについて、市長の方針・基本的考えを示していただきたい。

(市長)

桜島の爆発に伴う降灰は、本市にも様々な影響を与えており、特に学校においては窓を閉め切った授業に児童生徒が集中できないなど、良好な環境を維持できているとは言え

ない状況にあり、本市の普通教室へのクーラー設置については必要不可欠であると判断した。

私としても早急に普通教室へクーラー設置をするため、整備計画の策定を急がせており、国との協議を進める中で、整備計画が固まり次第、速やかに着手するよう担当課に指示している。

(市長) 本市市立小・中・高の普通教室へのクーラー設置について、森市長として「必要であると判断した」と明確な答弁をいただいた。当然、本市としても財政的な負担が発生するわけだが、それを考慮した上で夏の教育環境に鑑み、必要であると判断している。今後、早急に普通教室へのクーラー設置をするための計画を策定し、速やかに着手するように担当課に指示を出しているとのこと。

(市長) 他自治体は目を向けて、その是非は別として、首長としての個性を発揮しながら、市民の声をリードする自治体のPRも行っている首長がいる。

(市長)

そこで、森市長の理想とする首長像について、歴史上の人物も含め、具体的に示していただきたい。

理想の首長像として特定の人物の名前を申し上げないが、首長には、自治体を取り巻く状況や社会・経済情勢などを的確に把握するとともに、確固たる信念と強い情熱、大局的に事の本質を見抜く洞察力をもちつつ、公平・公正・透明を旨とし、市民目線に立った施策を展開し、市民の皆様の願いや幸せを実現していることが求められていると考える。

(市長)

※ここに紹介させていただきました部分は、代表質問のうちの二部です。

	学 校 名 ()は教室数	工事期間(予定)
平成22年12月補正	清水小(22)、城南小(9)、松原小(13) 清水中(14)、天保山中(10)	平成23年2月7日～6月15日
平成23年2月補正	吉野東小(25)、大明丘小(19)、大龍小(16) 山下小(15)、荒田小(16)、八幡小(23)、鴨池小(22) 吉野東中(13)、長田中(9)、甲東中(8)、甲南中(13) 鴨池中(14)	平成23年10月上旬～平成24年3月上旬
平成23年度当初予算	吉野小(33)、坂元小(17)、坂元台小(19) 草牟田小(18)、中州小(14)、武小(19)、中郡小(15) 南小(16)、吉野中(23)、坂元中(15)、城西中(20) 南中(14)、商業高校(24)	平成23年10月上旬～平成24年3月中旬

平成23年度クーラー設置校一覧

降灰と猛暑に悩まされる夏季の教育現場

最高で35度を超え、湿度も83%

市教委測定

記録的な猛暑となった昨年の夏の日本の平均気温は、平年を一・六四度上回り、統計を開始した明治三十一年以降百十三年間で最も高かったとの解析結果が、昨年気象庁より発表されております。

この猛暑により熱中症による死者が全国で五百人を上回るなど、もはや我慢できるレベルの暑さではなくなってきました。そのような中、昨

年の9月議会において、鹿児島市立の小中学校及び高等学校の普通教室に、クーラーを設置する方向性が示され、昨年の12月議会・今年の2月議会の補正予算、そして今年3月議会における新年度予算において、その設置に関する予算が計上されました。

普通教室のクーラー設置に関しましては、国の財政的支援が前提となること

はもちろんですが、今後のランニングコストを考慮したうえでも設置という市長の英断であり、これまでの議会の努力が実ったものであると、議会の一員として、また保護者の一人としても、大変嬉しく思います。

これまで、鹿児島市教育委員会が行った普通教室温度等測定結果によると、普通教室における最高気温は35度を超えており、その際の湿度は83%となっており、地域や時間帯、測定する回数によるばらつきはあるものの、夏期における教室の気温は軒並み30度を超えているのが実態です。

この暑さに昨年のような桜島の活発な活動も加わると、児童生徒や先生方は授

業に集中出来ないだけでなく、熱中症になる恐れもあります。今後は、桜島の昭和火口からの直線距離をもとに年次的にクーラー設置を行っていくことになりま

すので、これまでの状況は改善され、良好な環境で学習に取り組んでいただけるものと期待しています。

また、児童・生徒の学習環境とは直接関係ありませんが、今回の大震災に鑑み、避難所となる学校の屋内運動場(体育館)の設備拡充の必要性を感じました。

被災等により、住民が避難した場合、一定の物資が必要で、水道や電気といったライフラインの確保も重要となってきます。

今後、学校における太陽光発電施設や蓄電池の設置、また

物資の分散配置も視野に、考えていく必要があるのではないかと思っております。

「東日本大震災」の惨状教訓に 鹿児島市も安全対策の見直しを

三月十一日に発生した東日本大震災において被災された方々に哀しみをお見舞い申し上げますとともに、おしくなりなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

この未曾有の震災による死者・行方不明者は、合わせて二万三千人以上にのぼり、現在も約十万人の皆さんが避難生活を余儀なくされています。

この状況を目の当たりにしたとき、様々なことについて

災害対策で板橋区を視察5月26日に東京都板橋区の防災対策を視察して参りました。板橋区においては、海溝型地震・直下型地震・東海地震・大雨氾濫による水害などを想定し、地域防災計画を策定していました。

今回の震災の対応と

考えさせられました。地震・津波といった自然災害の脅威、二次災害が発生した人災ともいえる福島県における原発の事故、災害時における避難の在り方、そして人との絆など、千年に一度でもいわれるM9の地震は、過去最大級の津波を発生させ、宮城・岩手・福島の大津波を中心に、甚大な被害をもたらしました。

いづれ文明が発達しても、自然災害は避けられないもので

しては、計画停電の広報、特に医療機器を自宅使用する住民等への周知や、帰宅困難者への避難所の提供(小中学校を開放)を行ったとのことでした。

課題として、震災後携帯電話が繋がりにくく職員と連絡がとれなかった、仮に区が直接被害を受けた場合、区

あると痛感させられ、改めて想定外の災害が発生した際の危機管理の必要性を強く認識しました。

私たちの鹿児島市には活火山の桜島があり、仮に、鹿児島湾直下型地震が発生した場合、鹿児島湾北西部と桜島で震度6弱、県本土の広い地域で震度5弱以上の地震が予想されています。また、薩摩川内市には川内原子力発電所があり、鹿児島市も30キロメートル圏内にその一部が入っており

民に小中学校を開放するため、帰宅困難者向けの避難所を別に準備する必要がある等でした。

また、災害時の備品物資の保管は、避難所となる各学校に分散配置していること。他都市の教訓を本市行政にも反映して参りたいと思っております。

今回の震災をふまえて、鹿児島市においても市域防災計画の早急な見直しが必要であります。私、川越桂路(かわごえけいじ)は、今後も、市民の生命と財産を守る、安全な鹿児島市を創るために全力を尽して参ります。



クーラーを設置予定の普通教室(山下小)